日本外交文書

日本外交追懐録
（一九〇〇～一九三五）

外務省

序

外務省編「日本外交文書」は、明治期を経て大正期も完結に近づきつつあり、また昭和期についても、既に「満州事変」全七冊が刊行され、目下海軍軍縮会議関係の刊行が進められている。

これら公的な記録を補足し、かつ外交上の事例について、より具体的な理解を得るための史料として、このたび、明治・大正・昭和の各時期に活躍した長岡春一元大使の「追懐録」(当館所蔵)を「日本外交文書」の別冊として公刊することとした。

本書は、正編・続編・続々編の三編に分れる。正編では、長岡氏が外務省に入省した明治三十三年から一年間、調査に没頭した永代借地権と家屋税問題に関する記述に始まり、特にパリ講和会議に際し講和条約の起草に当った当時の事情が詳述されている。続編には、満州事変の際、昭和七年駐仏大使として苦心した日仏提携工作の経過、並びに満州国承認前後の事情などが記載されている。また続々編は、同氏が全権として折衝に当った昭和九年の日蘭会商に関する詳細な報告である。

本書が執務上の参考となり、また近代日本外交の軌跡を理解する上に役立てば幸いである。

昭和五十八年三月

外務省外交史料館長